

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610126124		
法人名	医療法人松岡会		
事業所名	山城第一グループホーム		
所在地	徳島県徳島市山城西1丁目182-3		
自己評価作成日	平成25年1月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、1ユニット6人と人数が少なく 狭い造りになっているが、つねに利用者職員が目に入る距離にあるため、安心してリラックスした生活送っていただける空間となっている。また、家族的な雰囲気や大切に支援している。同一法人の運営する医療機関と連携を図り、重度化した場合や終末期を過ごす体制を構築している、利用者や家族の希望にそった支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街のなかに位置している。周辺には、大学や小・中・高等学校、商店等が立ち並んでいる。職員は、利用者個別に付きそって、近隣の買い物や外食等の外出支援を行っている。利用者一人ひとりの要望の把握に努め、きめ細やかなサービス提供を目指している。利用者や家族との関係を大切にし、意見や要望を表出しやすい関係づくりに取り組んでいる。また、利用者が重度化や終末期に至った場合には、同一法人の運営する医療機関と連携を図りつつ、全職員で支援する体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			山城第一グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに介護理念を掲示しており、毎朝唱和し職員全体で共有・意識づけをしている。	全職員で理念について話しあっている。日ごろから、全職員で理念を振り返ることで、日々の実践への反映に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している為、秋祭りの神輿が立ち寄ってくれたり、文理大学での学園祭見学・アスティーデ島での催し物見学・散歩・近隣の店での買い物 外食もおこなっている。	民生委員から地域の情報を得たり、町内会の行事へ参加したりして地域との交流を図っている。また、大学の行事へ出かけたり、近隣の店舗で買い物を楽しんだりすることもあり、地域の一員として関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議等で、家族や地域の方に認知症への理解をしてもらえるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状報告・行事・災害訓練を行い、意見を出し合いサービスの向上に努めている。	運営推進会議では、利用者や家族に順番で参加してもらえるよう調整を行っている。日ごろの利用者の生活状況を報告したり、事業所の行事等を伝達したりしている。また、参加者と意見交換を行い、出された意見等をサービスに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護ながいき課に行き顔馴染みの関係を作り、実情報告を行い協力関係を作っている。	毎月、職員が市担当窓口を訪問して実績報告書を提出している。その際、市担当者へ事業所の取り組みや日ごろの利用者の生活状況等を伝えている。また、分からないことは電話で相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアに努めている。	全職員で見守りを重視した支援を行って利用者の気分や行動を詳細に把握することで、一人ひとりの自由な暮らしの実現に繋げている。外出の希望がある様子を察知したときには、状況を考慮しつつ対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員間でコミュニケーションを図り防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			山城第一グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持つことができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時にはしっかりと説明を行っている。また来所持に声掛けを行い不安や疑問点について説明に努め理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時には、気軽に意見や要望を言ってもらえるように声かけをし努めている。意見箱を設置し自由に投函できるようにしている。	日ごろの利用者との関わりのなかで、言葉や表情、些細な行動の変化等から意向を把握するよう努めている。また、家族の面会時には、職員から話しかけるよう努めている。家族が意見や要望等を出しやすいよう、職員は雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や職員からの意見・要望等を責任者会議で検討し、代表者にいつでも気軽に意見を伝える事が出来る。	日ごろから、管理者は、職員の声に耳を傾けて意見を聞くようにしている。なんでも言いあうことのできる関係づくりに努めている。職員から出された意見を代表者へと伝える仕組みを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日ごろから代表者は職員と話し合う機会があり、意見を聞き入れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じた研修への参加を促し、スキルアップに協力できる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徳島グループホーム協会に加入しており、研修会に参加し他事業者との意見交換を行いサービスの質の向上につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			山城第一グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの意見・要望をしっかりと聞き、安心してリラックスした生活送って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気楽に話しやすい雰囲気作りを心がけ、どのような事にもしっかりと耳を傾け相談し安心して頂けるようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見・要望をもとにその時の入居者様の状態に合ったサービスを見極め、対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者個人個人をしっかりと把握し、家族と共に生活しているような環境づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と気軽に相談しやすい環境作りをし、共に支えあう関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望に応じ、家族様と相談し連携を図って支援している。	地域の神社や喫茶店等への外出を支援している。出かけた先で出会った地域の人や神主さんとの会話を支援するなどしている。また、利用者の知人の来訪があったときには、家族と連絡をとりあい、継続して交流することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格を把握し、その人に合ったやりがい・役割作りをし、お互いに支え合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			山城第一グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方の中に、併設事業所を利用している方もおり、その方や家族の情報をしっかりと伝え、安心して過ごして頂けるように努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望の把握に努め、本人の立場になり考えよりよい生活を送れるように支援している。	家族から利用者の生活歴等の情報を得ている。また、得た情報をレクリエーションや日ごろの活動に活かしている。発語が困難な利用者には、うなずくことで意思表示ができるよう声かけを工夫し、意思や希望の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の思い・生活歴を大切に、日常生活がより有意義なものになるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の申し送りノートを活用し、朝・夕の申し送り時に内容を伝達し、状態の把握を徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所された時に意見や要望を聞き、職員と相談しその時の身体状況に応じた介護計画に反映している。	毎日、チェック項目と記述項目によるモニタリングを実施し、介護計画を確認している。また、本人や家族の要望と状態変化に応じて、そのつど職員間で話しあうなどして本人本位に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録や申し送りノートに記載し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設にクリニック・支援事業所・デイケア等があり行事参加をしたり、PTIにマッサージをしてもらったり利用者のニーズに合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			山城第一グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の希望に応じて新聞や雑誌を購入したり、好きな食材を買い物に出かけたり出きる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、個別の受診体制を確保し、これまでのかかりつけ医の受診も自由に行ってもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診は、家族の協力を得たうえで支援している。職員が代行を行った場合には家族へ病状や結果等を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、師長に入居者の身体状態の報告を行い相談や助言を受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院される時、家族と共に職員も同行し主治医との情報交換や相談に努め早期の退院、その後について話し合い支援を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りに関する指針を説明し意志の確認を行っている。状態の変化に応じてその都度家族の思いや意見を尊重し、医療との連携を図りながら支援に取り組んでいる。	利用者の状態変化に応じて、本人や家族の意向を確認している。医師や看護師、職員間で連携し、方針の共有化を図ったうえで重度化や終末期の支援に取り組んでいる。全職員で事業所としての終末期支援に関する方針を共有化している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時及び緊急対応マニュアルを作成しており、予測されるケースは、医師より指示を受け対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜共に想定した非難訓練を行っている。また近所の民生委員の協力をえている。詰め所に非難用ヘルメットや非常食・飲料水を備蓄している。	災害時に備え、事業所独自の避難訓練や通報訓練を実施している。利用者の人数分のヘルメットを配置し、緊急時に使用することができるよう備えている。また、同一法人の運営する他サービス事業所と合同で消火器の使用訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			山城第一グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個々の人格を尊重し、個性を見極めそれぞれに合った声掛け・対応をしている。	職員は、利用者の気持ちを第一に考えて接することで、一人ひとりの自由な暮らしの支援に努めている。つねに利用者の人格を損なうことのないような声かけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、馴染み・信頼関係を構築し利用者が自己決定しやすいように環境作りをし 支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、本人の希望を尊重し支援している。またその日の体調にも配慮をする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣等、しっかり声かけをし本人の希望に沿って身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを巻いてもらったり、お盆を拭いてもらったり職員と共に準備をし、同じテーブルを囲み楽しい雰囲気の中で食事をしている。	利用者は、一人ひとりの力量に応じて食事の準備や後片づけなどの役割を担っている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事・水分摂取量を毎時チェックしている。また身体状態に合わせて刻み・ミキサー食にしたり、栄養補助食品にて摂取しやすいように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝時に、歯磨きの声掛け口腔ケアを行い その人に合った支援をしている。希望者には訪問歯科医に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	山城第一グループホーム		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その時の状態にあった排泄介助を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。利用者のしぐさや行動等からタイミングを見計らってトイレへ誘導している。トイレへの誘導時には、プライバシーに配慮したさりげない声かけを行うよう努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた運動をしたり、水分摂取の確保に気を配り自然排便をうながしている。また個人の好みに合わせ牛乳・乳酸飲料・ジュース等を飲用してもらい工夫している。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決まっているが、その日の体調や希望に応じて入浴が出来る様に支援している。また毎日足浴も行っている。	2日に1回の入浴を支援している。体調等の都合で入浴が困難な場合には、全身清拭や部分浴を活用することで清潔保持に努めている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の身体状況・生活リズムを考慮し、安心して休息・眠れるように支援している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ケース毎に閉じ、職員が把握出来るようにしている。また服薬時に見守りや介助を行い、症状の変化が見られたときには、速やかに医師に報告し対応している。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの話や生活歴・日々の生活の中から、その人に合った楽しみや役割を見つけ支援している。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物等本人の希望に合わせて出かけられるように支援している。また家族と共に出かけたり・外食したり自由に行ってもらっている。	職員の同行による個別の外出支援を行っている。本人の体調や気候等に応じて、初詣や花見、外食、買い物等へ出かけており、戸外で気持ち良く過ごすことができるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			山城第一グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所で預かっているが本人より要望がある時には、家族と相談し合意を得たうえで所持したり使用できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、自由に電話を使用出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、狭くはあるが 目と声がすぐが届き、安心して楽しく暮らせるようにしている。また壁や廊下には、写真や季節に応じた飾り物・植物を置き、居心地良く過ごせるようにしている。	事業所では、花を生けたり、手芸品や装飾品を飾ったりして、季節を感じることもできる空間づくりを行っている。また、利用者の写真を飾るなどして、家庭的な雰囲気づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にてテレビを見たり、ソファでくつろいだり、自室でゆったりとされたり、自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談をし、慣れ親しんだ物を自由に居室内に持ち込んでもらい安心して過ごしてもらうようにしている。	利用者は、使い慣れた家具や家族の写真等の思い出の品々を居室に持ち込んでいる。利用者や家族、職員間で家具の配置や安全面について相談し、本人が居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室入口に写真入りの表札を付け、自分の部屋だと認識してもらい安心して生活を送ってもらえるようにしている。		